

令和 6 年度第 2 回瀬戸市図書館協議会
議事録

日時：令和 7 年 3 月 25 日（火）午前 9 時 30 分から 11 時まで

場所：瀬戸市文化センター 文化交流会館 1 階 11 会議室

出席者：15 名

<会 長> 中井 孝幸

<委 員> 加藤 英憲（副会長）、石川 良文、加藤 絹子、加藤 由夏、佐合 浩史
柴田 優子、野田 敬資、村木 さやか、米井 勝一郎

<事務局> 教育部長 駒田 一幸、図書館長 吉村 きみ

図書館主事 矢野 和幸、図書館会計年度任用職員 加藤 小百合

<オブザーバー> 株式会社リブネット 永田 亜紗子

傍聴者：1 名

議事内容：

1 開会

事務局(館長)進行

- ・ 会議成立の報告
- ・ 傍聴者へ注意事項の説明
- ・ 委員へ議事内容記録のための録音の説明
- ・ 閉会予定時刻の説明

2 あいさつ

○事務局(教育部長)

最初に、図書館本館のリニューアルについてお伝えする。今年の 1 月から本館を休館し、2 月の中頃から実際の工事に着手をした。本館は昭和 45 年に竣工した建物である。55 年を経過してのリニューアルとなる。工事を進め、改めて建物を確認すると相当劣化が進んでいる部分がある。リニューアルオープンに向けて、安全面に最大限配慮して整備を進めていきたいと考えている。

次に、図書館本館の施設面についてお話する。本館はアップサイクル（つなぐ）を基本コンセプトとして設計し、その完成イメージを昨年 7 月の協議会の場で皆さんにも共有をした。具体的には、「テーマ別」配架、アクティブラーニングの部屋などを設置した新たな図書館である「大人がゆっくり楽しめる、子どもも一緒に楽しめる図書館」を目指して整備をしている。

最後に、運営体制の見直しについて述べる。ハード面の整備とあわせ、リニューアルオープンのタイミングでソフト面の見直しも行いたいと考えている。図書館本館、パルティセと情報ライブラリー、地域図書館という本市の図書館ネットワーク全体による新たな運営体制の検討を進めている。運営体制の見直しは本日の議事の 1 つとしている。皆様からご意見を賜りたい。

○事務局(図書館長)

- ・資料確認

3 議事

○事務局(図書館長)

議事に移る。議事については、瀬戸市図書館協議会条例第8条第1項の規定に基づき中井会長を議長として進行をお願いする。

○会長

図書館本館リニューアルに向けての工事が始まり、今後1年程度、休館する。今まで私達も様々な地域で新しい図書館のビフォーとアフターの調査をしている。ある1日の調査の結果では、図書館利用者は1.5倍から2倍ぐらいに増えていた。当然最初は施設が非常に変わったという理由から、新しく来館される方が多い。

リニューアル前の1.5倍から2倍の来館者数をいかに維持していくかが大切である。利用者として定着してもらうために、サービス面も重要である。そのことを踏まえて、様々なことを協議していきたい。

(1) 報告

○事務局(図書館長)

資料1に基づき説明

○会長

新しく図書館が開館するとき、ドローンを用いて動画を撮影することが多い。人が入ってくる動きに合わせてコンピュータでCGを作ることできる。リニューアルオープンの際には、ドローンで竣工記念の動画などを撮影しイベントを開催してほしい。

○事務局(図書館長)

図書館本館は、工事を着手する前にドローンで建物の内部を撮影してもらった。その動画は図書館のホームページでアップしている。もう今後見ることができない工事前の本館の様子を見ていただくことができる。また、リニューアルオープンした際も同じように新しくなった本館を撮影していただき、両方を見比べることができるようにしたい。

○委員

- ① ドローン操縦体験会について、参加者の年齢層などについて知りたい。
- ② 南山大学も古い建物の図書館をリノベーションした。その後、リニューアルする前と後の写真や絵を展示するコーナーを設けている。展示では、歴史的にどのような経緯で図書館ができ、どのような形に変わったかが分かるようになっている。学生や教職員などが図書館の歴史も含めて色々感じるようなところもある。工事前の瀬戸市立図書館本館の写真などがあれば、新旧どのように変化したかを展示できると良いと考える。ドローンで、リニューアル後に、動画で示すことも良いと思う。

○事務局(図書館長)

- ① ドローン操縦体験会の参加者年齢層については、子どもの参加もあったが、30代ぐらいの父親が希望して参加を決めたというパターンが多かった。また、半数が高齢の男性であっ

た。全体の約 3 分の 1 は 70 歳以上の方が占めていた。夫婦での参加が 3 組ほどあった。

- ② 南山大学ライネルス中央図書館を参考に、当館でも歴史的な背景、リニューアル前後の展示をやっていきたいと考えている。

(2) 今後の図書館運営について

○事務局（図書館長）

資料 2 に基づき説明。

○会長

事務局からの説明に対しご意見・ご質問等はあるか。

○委員

リニューアルオープン後のバリアフリーについて伺いたい。今から言ってもなかなか難しいと思うが、施設内の段差などはなくしてほしい。備品について、高い書架だと利用が難しい来館者がいることに気がつくことが多い。しかし、実際は低い書架についてもしゃがむと再び立ち上がることが難しい方などにとっては使いにくい。そのような方への対応についてお聞きしたい。また、図書館本館は坂の上にある。外周りについて利用しやすくなるような方法は考えておられるか。

○事務局（図書館長）

バリアフリーの対応については、館内エレベーターを設置することを重要視している。段差の解消も視野に入れて改修することになっている。館内での車椅子移動が今まではできない状況であったが、車椅子移動が可能なようにスペースを取る設計になっている。低い書架への対応については、備品設置の際に配慮しながら対応していきたいと思う。また、外周りについては、長寿命化改修工事のため老朽化した施設の対応が主となり、外構についての予算を持っていないが、より使いやすように工事の中で対応したいと考えている。坂道への対応については、図書館本館入口前にバス停を設置した。5 年前から本市のコミュニティバスが来るようにした。利用も進んでいるため、今後は、図書館を経由する便が増えていくよう担当部署へ要望を出していきたい。

○委員

小中学生が夏休みに 1 日中過ごせるような場所があったらいいなと思っている。小中学生は、家にいると、1 日中 YouTube などを見がちである。親は外の空気を吸ってほしいと願っているが、外は危険だ。図書館はエアコンが効いている。快適な空間であるため、それを最大限活用し 1 日中過ごせるといい。また、自由に飲食できるスペースがあるといいと思う。そのようなスペースは小中学生が 1 日過ごせる場所になると思う。また、コミュニティバスの本数は 1 日どのくらいになるのか。

○事務局（図書館長）

一般書が配架されていた中 2 階に読書や学習が集中してできる学習室を設置する予定である。飲食については、ルール作りを今後市民の皆さんとワークショップを交えてやっていこうと思っている。昨年 7 月に協議会でお集まりいただいた集会室は飲食できるようにしていた。リニューアルオープン後も芝生広場でキッチンカーを呼び、飲食可能なエリアを設けるように

したい。それを継続しつつ、1日過ごせる図書館にしていきたいと考えている。コミュニティバスの本数については、担当部署と相談しながら今後進めていきたい。

○委員

感想を申し上げる。資料2の1今後の図書館の在り方について（瀬戸市立図書館利活用計画）を一生懸命熟読した。その中の最初の丸のところで、今後の図書館サービスを行う方向性が示されている。「読書のための図書館から未来を拓く図書館へ」という記述がなかなか理解できなかった。「未来を拓く図書館へ」とは、誰の未来を拓くのかが漠然としてわからなかったが、過去の資料を読み、「瀬戸市の」未来を拓く図書館を目指していることがわかり、納得した。

○委員

- ① 全中学校区に地域図書館が揃っていないため、水無瀬中学校区に1館増設する予定であることについてお尋ねしたい。水無瀬中学校の学校図書館を利用した地域図書館を新たに開設するという理解でいいのか。
- ② 図書館本館エリアの使い方について伺いたい。歴史民俗資料館も含めて本館エリアはどのように活用される予定なのか。
- ③ 図書館としてリノベーションをすることの意義について整理したい。瀬戸市の芸術的な文化の継承という面のほか、環境の面から「廃棄物を軽減できること」についても伝えられるとよい。図書館を全て壊しての新館建設となれば、建設廃棄物が大量に発生する。リノベーションであると廃棄物が軽減できる。現在、産業廃棄物について様々な問題が起こっている。廃棄物処分も含めて、廃棄物がどこに行くかという話も伝えられる環境・ゴミ問題の図書コーナーを設け、リノベーションの意義を子どもたちなどに情報提供する場とし、リノベーションにより廃棄物が何%削減できるかを工事事業者から具体的な情報をもらい、新しい図書館になったとき、産業廃棄物も削減できるというストーリーも持たせて瀬戸市のためになるような情報発信の場にできるとよいと考える。
- ④ 財政的価値についても教えていただきたい。特に窓口業務委託料については、人件費等の高騰も世間でも言われており、致し方ないと思う。見直しにより職員数を21.5人から20人にするという話もあった。全体の費用で委託料がどれぐらいかかるかわからないが、約55%増加する中で、この1.5人の減少で、どの程度軽減できるものなのか。

○事務局（図書館長）

- ① 地域図書館を7館から8館に増やし、水無瀬中学校区に開設することについて、水無瀬中学校の学校図書館を地域図書館にするという具体的なことはまだ決まっていない。水無瀬中学校、長根小学校、陶原小学校いずれかでの開設を考えており、今後、進めていく。今までの地域図書館については学校施設の改修工事のタイミングに合わせて設置した。よいタイミングで地域図書館を新設できるようにしたい。
- ② 現在の歴史民俗資料館については、担当部署が異なりお答えできないが、既に駐車場の部分は、図書館の駐車場として利用している。今後も引き続き平らな駐車場として使っていく予定である。
- ③ 新館構想ができたときから北川民次画伯の陶壁画を残すべきだと市民の皆さんにも強く言

われていた。北川民次画伯が、図書館のために描いてくださった絵を基にした陶壁画は、図書館のシンボルとなっている。この絵には、「妄想におびえる人間が本で知識を付けて妄想を拭い去る」という思いが込められている。私は、この言葉を知ったときに涙が出てきた。図書館は、市民が様々な課題にぶつかったときに、書物などの情報によって解決していくという意味も強い。北川民次画伯は、メキシコに長く滞在されていた。日本に戻ってきてから、いくつか作られた中で図書館本館の壁画が最後の壁画となった。陶壁画の意味を深く受けとめ、今後に繋げていきたい。子どもたちにもこのストーリーを伝え、未来につなげていきたいと考えている。また、廃棄物の削減については、業者に情報をもらいながら、紹介していけるようにしたいと思う。今回の設計のコンセプトは、「アップサイクル」であることから、廃棄物の削減がどのくらいできているかについても情報提供したい。今の建物を最大限活かして今後につなげていくようにしたい。

○事務局（教育部長）

- ③ 本市では「公共施設等総合管理計画」という計画に基づいて公共施設マネジメントに関する取組を進めている。計画では、「公共施設等の長寿命化による、安全性の確保と財政負担の軽減」という基本方針がある。その方針の中に環境という考え方を持ち合わせていなかった。こうした考え方も全庁的に共有してまいりたい。
- ④ 本市では、これまで民間への業務委託を活用することで、職員数を軽減しつつ、市民サービスの向上に取り組んできたところだが、昨今の委託料の上昇に対して、業務委託から直営にシフトしている業務がある。具体的には、市民課の窓口業務において民間業務委託を一部直営に戻すなど、委託と直営のバランスを見直している業務があり、図書館本館の窓口業務委託についても同様に見直しを検討していきたい。

あわせて休館日の設定や開館時間の短縮といった見直しを行うことで、一定程度の財政効果が得られると試算しており、全庁的な予算配分の調整を踏まえて、こうした財政効果を地域図書館の拡充など、新たな市民サービスの向上に活用できればと考えている。

○委員

新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行してから、子どもが外に出向くことが容易になってきた。水南保育園は以前よく図書館の方に散歩で行っていた。散歩も安全面への配慮、保育士が何人ぐらいいないと連れていけないという色々な規制の中で、私が水南保育園に就任してからは1度も図書館への散歩ができておらず反省している。保育園の近くに図書館があると保護者も園児も結構利用が多い。保育園から連れて行けてなくても「親子で行ったよ」などの話をよく聞く。保育士も世代が変わり、若い保育士がたくさんいる。県外、市外から通勤している保育士も瀬戸市立図書館に行き、子どもに読ませたい本を見て「図書館でこれだけ借りてきました」と言って、張り切って子供たちに読み聞かせをしている。新しくなる図書館を保育園でも最大限利用していきながら、子どもたちに見せていきたいと思う。保育園も図書館と一緒に施設が古い。保育園の教材も昔の本がたくさんある。今の子どもたちは情報の中で育っているので、動画などは簡単に検索できる。保育園はアナログである。保育士の生の声で小さい子どもでもわかる紙芝居などを子どもたちに読み聞かせしながら、絵本や紙芝居などを楽しんでいきたい。子どもたちのためによりよい図書館作りができていたらいいなと思っている。

○事務局（図書館長）

水南保育園には、図書館友の会のご協力をいただき毎年七夕の短冊を書িয়েくれている。休日七夕飾りを見に来てくれる親子が大変増え、とてもよかったなと思っている。

○委員

北川民次画伯の陶壁画について、リニューアルを機に洗浄、修復とは言わないまでも手を入れる予定はあるか。

○事務局（図書館長）

今回の工事に外壁の洗浄は入っている。外の陶壁画については、3年前に落下防止のため改修を行っている。要所にピン留めをし、全体に1枚の特殊なフィルムを上から貼り付けている。フィルムを貼ったことによってのくすみが出てくる可能性があると言われているが、安全第一とした。当初焼いて貼り付けたときとは、やはりいろいろ違って来るかと思う。

○委員

見直し内容の地域図書館について意見を申し上げる。私もよく地域図書館を使っている。水無瀬中学校校区に1つできると、地域の方たちは喜ぶと思う。気になった点が2つある。1つ目は、光陵中学校地域図書館は、3階にあるためなかなか行けない人が多いということである。2つ目は、業務委託のスタッフが1人でしか地域図書館に行っていないことである。品野台小学校地域図書館でもし自分が窓口業務をしたら、誰も来ず寂しいと思う。変な人が来たら怖いという場所にある。地域の活動などで地域図書館を盛んにする手立てはないかと考えている。友の会の中でおはなし会の人たちが、本館休館中のため、「土曜日、日曜日に地域図書館を使わせてもらえないか」と言ったら、地域図書館のスタッフから「中学生が勉強に来ているので大声を出すことは難しい」と言われた。地域図書館が中学生に活用されていることはいいと思った。学校、その地域のボランティアなど色々な人に声をかけることでさらに活用できるという。協力できることがあれば協力する。建物以外の活用の仕方もあるこの見直し内容に入れていただけたらと思った。

○事務局（図書館長）

地域図書館については、もっと利用が増えることを望んでいる。読み聞かせなどご協力いただければ、またお願いしたい。図書館本館が休館になってから、地域図書館の来館者数は2倍から3倍になっている。休館前から窓口スタッフが「地域図書館、情報ライブラリーを使ってほしい」と一生懸命宣伝をした成果だと思う。図書館本館休館を機に地域の方々と相談し、地域図書館をますます活用していただけたらと考えている。また、読み聞かせについてはボランティアさんにお声がけした。元々図書館本館で土曜日に行っていた読み聞かせの場所をにじの丘ライブラリー（にじの丘学園地域図書館）に移して行っている。このような活動が他の地域図書館でもやれるといいなと思っている。今まで図書館本館の方で活動していたボランティアさんにお声掛けをしながら進めていきたい。また、中高生が勉強するために地域図書館を使ってくれるようになっている。「勉強する場所がない」という声を受け、学習の場としての活用もできるようにしている。地域図書館は元々サークル活動もできるようにということで始まっている。その辺の兼ね合いもあり、読み聞かせの練習は大きな声を出すため少し厳しいかと思うが、サークル活動や学習会などもできるといい。上手に時間帯を設定するなどし

て対応したい。

○委員

図書館本館の休館にあたり、どうにかならないかなということがある。本館休館後に目当ての本があり、パルティセと情報ライブラリーと地域図書館に問い合わせたところ、その本はもう図書館本館の方でダンボールの箱の中に入れており貸出ができない状態になっているという話を友人から聞いた。図書館本館の休館が1年程続いてしまうと困る方も出てくると思う。その対策はもう遅いのか。

○事務局（図書館長）

開架に出していた本でよく利用される資料はスタッフがピックアップし情報ライブラリー及び地域図書館へ持って行っただが、全てにお応えすることは非常に難しかった。箱詰めして倉庫の方に入っているため、取り出すことは不可能な状態である。書庫に入っている本は、当館しか持っていない資料が主である。開架になっていた本は瀬戸市民が使える近隣の日進市、尾張旭市の図書館などにもある本があるため、ご迷惑をおかけするが、近隣の図書館に本があることを紹介している。相互貸借という愛知県図書館、他市の図書館並びに大学図書館から借りて貸し出しできるサービスを活用しながら、ご不便をおかけするが進めていきたいと考えている。

○委員

小中学校で、地域のことを学ぶとき、図書館で資料を借りることもあると思う。他市にはない郷土資料がどうなっているのかについて聞かせていただきたい。

○事務局（図書館長）

郷土資料については書庫に入れており、いつでも取り出せる状態である。よく利用される資料は情報ライブラリーなどに配架している。

○会長

開館時間の短縮は、ぜひやっていただいていたいいと思っている。施設を新しくすると開館時間も伸ばしていくことが他の図書館では多い中、コスト面も考えての見直しであると思う。滋賀県立図書館が「コストを削減しろ」と言われたとき、週休2日制にしたようである。週休2日制にした理由は、資料費を削減したくない、つまり、「本を買うお金は削減したくない」ためである。1度資料費に手がつけられると、どんどんなくなっていってしまう。資料費を死守するためにも、週休館日を設定するとお聞きしている。パルティセと情報ライブラリー及び図書館本館で休館日を変えてどちらかが開館している形になっている。

リニューアルの意義を整理したいという話が先ほど委員よりあった。本館、パルティセと情報ライブラリー、地域図書館というネットワーク全体でサービスをしましょうという取り組みだと考える。これはユニークな取り組みだと思っており、すごくいい。蔵書構成まで踏み込むかどうかについても、今後、考えていただいてもいいと思う。地域図書館は、学校にあるため小中学生に読まれる本が当然置いてある。大人が読む本あるいは小さな子どもたちが読む本がどこにあるのかということ、10館体制でそれぞれが持つ強みという形で少しやることも可能性としてはあると思っている。今後、瀬戸市ならではのネットワークと、その蔵書構成をサービスも含めて、実行していただけるといいと思う。

先ほどよみかぜの練習は声が大きいため難しいという話があったが、図書館はもう全体

が静かな場所である必要はないと考えている。静かに本を読める場所も必要なため、静かな場所があってもいいが、館内全体がシーンと静寂を保つところではなくてもいいと思う。様々な活動が図書館でされることを許容されていけばいいと考える。

先日、別府市で講演をした。その際に浦安市立図書館の元館長さんがいらっしゃった。「図書館は何のためにあるのですか」という質問が来たときに、迷いもなく「自己実現のため」とおっしゃっていた。「図書館は、その本を読むことが、実は自己実現につながっている。小さな子どもから高齢者までの世代がそれぞれの自己実現のために、図書館に来て資料を使って活動する。そのための場所である」とおっしゃっていた。近くにある図書館で、その時々自己実現に必要な資料が足りないのであれば、別の図書館まで行かないといけない。時間がかかっても、近くの図書館に取り寄せてくれるのであればそれでもいいと思う。

本日のお話を聞いて、見直しをされた後の「未来を拓く図書館」とは、市民一人一人が自己実現をしていくために、図書館でチームとして取り組むことになると思った。そういった意味では戦略を立てられているため、苦しくなったら最悪もう1日休んでもいいと思う。週休2日または開館時間をさらに短くしてでも、図書館のサービスの質を下げないことが、大事なことだと思う。このように検討されていることは、よく頑張っていると思う。窓口業務委託料は安くならない。教育部長が最初におっしゃったように、定員があるため無尽蔵に職員を増やすことができない。そのため、外部に頼らざるを得ないというところもあるだろうが業務委託料は意外と安くはない。全国色々なところで今抱えている課題だと思う。瀬戸市はまだ直営で運営しているからいい。完全に指定管理にしたところはもう戻れない。要するにそのスキルを持った職員がいない。一度全部丸投げしてしまうと、なかなか戻れない。瀬戸市では、窓口業務委託を直営に戻す見直しができ力強く感じているため、ぜひ頑張っていたきたい。

(3) その他

○事務局（図書館長）

本日たくさんご意見いただきましたので、皆さんの声を反映しつつ進めていきたいと思う。「瀬戸市立図書館の利活用計画」はこの協議会で皆さんからご意見いただいて出来上がったものである。これを基に進めており、中井会長から言われましたように、本館、パルティセと情報ライブラリー、地域図書館とそれぞれがターゲットを絞ってやっていくという「利活用計画」になっている。地域図書館は元々学校図書館を利用しているので児童書に強い蔵書構成になっていくように「利活用計画」でも定められている。

○会長

学校図書館の選書はなかなか難しいだろうが、やはり読ませたい本と読みたい本は違うと思う。大人の本が少し置いてあると子どもたちも大人の本に触れる機会にもなる。そういった意味で、地域図書館はなかなかユニークな取り組みだと思う。色々なご意見いただいたため、それらを踏まえ事務局の方で今後進めていただければと思う。

他に意見や質問がないようなので次の議事に進む。進行を事務局に戻す。

4 その他

会長から引き継ぎ、事務局が進行

5 閉会

次回の図書館協議会は6月頃の開催予定。

令和 6 年度図書館の活動報告

本棚づくりのワークショップ

1. 開催日時 令和 6 年 6 月 2 9 日(土) 午後 1 時 30 分～ 5 時
2. 開催場所 図書館 1 階集会室
3. 参加人数 18 名 (うち小学生 6 名)
4. 内 容 図書館のリニューアルについてレクチャー (1 5 分)
グループワーク (1 9 5 分 ※途中休憩 1 回)
本棚づくりのワークショップ
編集工学の手法を学びながら、グループで各自が持ち寄った
それぞれの本を関連づけ体系化し、ひとつのテーマの本棚をつ
くった
5. 講 師 太田剛 氏(図書館と地域をむすぶ協議会チーフディレクター)
6. 成 果 グループ編成は、大人と子どもの混合チームとした。各グ
ループとも小学生が、大人を圧倒させる自由な発想で、チ
ームを引っ張り、ユニークなテーマの本棚を完成させるこ
とが出来た。



令和6年度図書館の活動報告

ドローン操縦体験会の開催結果について

1. 開催日時

令和6年11月9日（土）午前10時～午後3時

2. 開催場所

瀬戸市立図書館 1階 集会室

3. 参加人数

45名

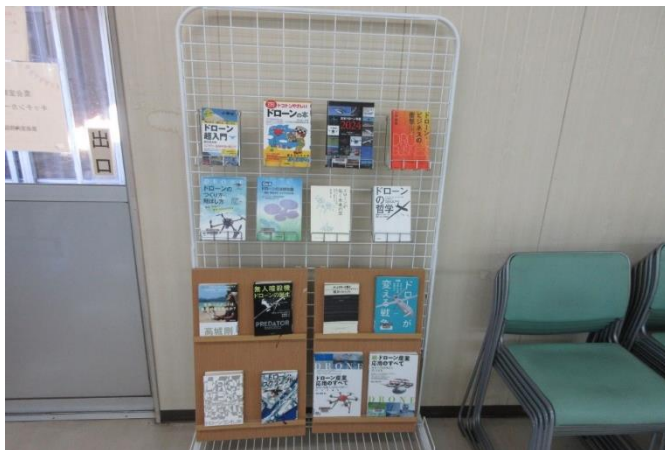
4. 開催内容

（1）ドローン操縦体験（講師：図書館エディター養成講座Ⅰ期修了生の小島雅彦さん）

（2）ドローン関連資料の紹介

16冊展示し、うち貸出は3冊であった。

5. 成 果 非来館者の参加を見込んだ狙い通り、参加者の1/2が図書館未利用者だった。ドローンの操縦は、認知機能を鍛える「脳トレ」効果があり、認知症予防をテーマとした事業としていけそうだ。



今後の図書館運営について―図書館本館リニューアル・オープンに向けて―

1 今後の図書館の在り方について（瀬戸市立図書館利活用計画）

- 令和2年度に策定した「瀬戸市図書館利活用計画」において、今後の図書館の在り方として、ひとつの大きな中央図書館ではなく、今ある施設を有効活用し、図書館本館、パルティセと情報ライブラリー及び地域図書館の特性を生かしつつ連携させて、全体で図書館サービスを行う方向性が示され、「読書のための図書館から未来を拓く図書館へ」を目指して取組を進めている。
- 本館、情報ライブラリー、地域図書館でそれぞれ機能分担し、本館をスリム化させた上で改修する計画としており、こうした考え方にに基づき本館リニューアル（長寿命化）工事を進めている。
- また、デジタル化やオンライン化など新しい図書館サービスを展開できる図書館の推進に向けた取組も進めていくこととしている。

2 図書館運営における現状の課題について

(1) 図書館窓口業務等の委託料の高騰

- 図書館の運営については、本館、情報ライブラリー、地域図書館の窓口業務等を5年間の長期継続契約として民間事業者へ委託しており、人件費等の上昇を受け今期の委託料は前回比で「13%増加」する結果となっている。
- さらに次期の委託料について、今期と比較し「約55%増加」となる見込みとなっている。

(2) 地域図書館の在り方

- 図書館利活用計画では、本館、情報ライブラリー、地域図書館の特性を生かしつつ連携させて、全体で図書館サービスを行うこととしており、市内全中学校区に地域図書館を設置する計画（地域図書館づくり計画）を公表しているが残り1中学校区において実現していない。

(3) 効果的・効率的な施設運営・管理

- 本館及び情報ライブラリーでは現状、週休日（毎週の定期的な休館日）が設定されておらず、施設のメンテナンス（点検・検査、清掃等）を実施する休館日が確保できていない。
- また、夜間時間帯など来館者数が非常に少ない時間帯があることなどの非効率性を解消し、将来にわたって質の高い図書館サービスを継続して提供していくために効果的・効率的な施設運営・管理の在り方を検討する必要がある。

3 市民満足度の向上と効果・効率の取組について

- 本市では、財政需要の増大による現状の厳しい財政状況や今後の財政見通しから、市民サービスの向上を目指しつつ、持続可能な行財政運営を行っていくための取組を実行することとしている。
- その中で窓口対応時間等の見直し及び事務改善として「窓口対応時間の検討」、「DX等の推進」、「各施設の休館日の検討」を進めることとしている。

4 今後の図書館運営について

(1) 運営体制の見直し

- 令和8年4月の「図書館本館リニューアル・オープン」と「現委託契約期間の更新時期」に向け、「未来を拓く図書館」を実現するとともに、市民サービスの向上、業務の効率化、財政的な効果を図るための「新たな体制による図書館運営」を目指し検討を進める。

(2) 見直し内容

- ① 地域図書館の在り方、②DXの推進、③休館日・開館時間の見直し、④窓口業務委託の見直し

(3) 見直しの具体案とその効果

【見直しを実施しないケース】

区 分	人数（人）
正規職員・会計年度任用職員	6.0
業務委託職員（本館、パルティセと、地域図書館7館等）	15.5
合 計	21.5

【図書館本館】

- ・ 週休館日を設定 毎月第4水曜日 ⇒ 毎週月曜日＋毎月第4水曜日
- ・ 開館時間見直し 4月～9月：9:00～19:00 ⇒ 9:00～18:00
10月～3月：9:00～18:00 ⇒ 9:00～18:00
- ・ 窓口業務委託を直営に見直し
- ・ 電子書籍の充実、セルフ窓口の拡充 等【DXの推進】

見直し内容

【パルティセと情報ライブラリー】

- ・ 週休館日を設定 週休日なし⇒毎週火曜日
- ・ 開館時間見直し 9:00～21:30 ⇒ 9:00～20:00
- ・ 電子書籍の充実 等【DXの推進】

【地域図書館】

- ・ 地域図書館づくり推進計画の実現に向けた検討
7館 ⇒ 8館（全中学校区に開設）
- ・ 電子書籍の充実 等【DXの推進】

【上記見直しを実施するケース】

区 分	人数（人）
正規職員・会計年度任用職員	10.0
業務委託職員（パルティセと、地域図書館8館等）	10.0
電子書籍の充実等【DXの推進】	—
合 計	20.0

5 スケジュール（案）について

